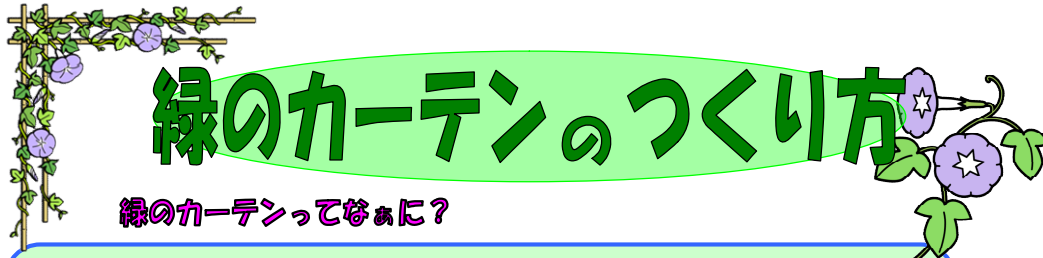


4 緑のカーテン

(1) 緑のカーテンとは

ゴーヤやアサガオなどの一年草のツル性植物で建物の窓を覆うものです。暑い夏は、葉が窓を覆い、夏の日差しをさえぎり、葉からでる水蒸気により周りの温度を下げ室内を涼しく感じさせます。また、冬には葉を落とし日差しを部屋に取り込むことができる省エネルギーやヒートアイランド対策の手法の一つです。

(2) 緑のカーテンのつくり方



緑のカーテンってなに？

ゴーヤやアサガオなどのつる性植物(一年草)で建物の窓をおおうものです。暑い夏は葉っぱで窓をおおいますが、寒い冬には葉っぱを落とし、暖かい日差しを部屋のなかに取り込むことができます。夏の日差しをさえぎるとともに、葉っぱからでる水蒸気により、周りの温度を下げ、室内を涼しくしてくれます。エアコン使用によるエネルギー消費を抑えられるなど、ヒートアイランド対策にも効果的で、全国各地で取り組みが進められています！！

「緑のカーテン」オススメ植物

ゴーヤ(ウリ科)



熱帯アジア原産で、一年生のつる植物です。

黄色い花が咲き、果実は沖縄料理で有名なゴーヤチャンプルーの材料に使うことができます。緑のカーテンに使う代表種で、暖かい地域が原産なので、盛夏になると、とても早く成長します。

また、病害虫にとっても強く、育てやすい植物です。

アサガオ(ヒルガオ科)



一年生のつる植物です。品種改良種も多く、様々な色や大きさの花のタイプがありますので、お気に入りの品種を探してみましょう。

また、小学校の観察教材に多く使われるなど、育てやすくなじみ深い植物でもあります。

ヘチマ(ウリ科)



一年生のつる植物です。黄色い花が咲き、果実は汁物や煮物などの料理に使ったり、乾燥させてタワシにすることもできます。

また、収穫後に地上部を刈り取る際には、化粧水などに利用できるヘチマ水を取ることもできます。

ヒョウタン(ウリ科)

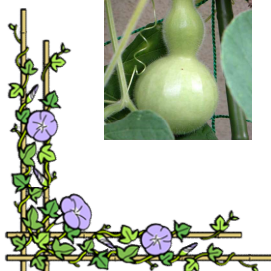


一年生のつる植物です。ウリ科では珍しく白い花を咲かせます。

果実は水入れや容器など様々な用途に使用することができます。

実を大きく成長させたり、ひび割れを防ぐために十分な水やりを行いましょう。

写真撮影：青木繁伸(群馬県前橋市)





用意するもの

使う材料はプランターや支柱、ネットなど、ホームセンター等で購入できるものなので、手軽に始めることができます♪「緑のカーテン」コーナーが設けられているお店もあります！

①種や苗

市販される苗は時期が限られるため、苗を購入する際は十分注意をしましょう。ゴールデンウィーク前後が狙い目です(ゴーヤ苗は特に人気商品です)。

②土・肥料

土選びは非常に重要です！プランターという限られた空間で植物が生育するので、良質な土を選びましょう。色々な種類の土がブレンドされている野菜用の「培養土」が手軽でオススメです(ゴーヤは酸性の土を嫌います)！培養土に肥料が入っているものもありますが、野菜用の化成肥料を定期的に与えると大きく健康な苗に育ちます。

③鉢底石

水はけを良くするために、必ずプランターの底に入れておきましょう。

④プランター

植物の生育基盤となるため、なるべく多くの土が入る大型のものが良いでしょう。しかし、ベランダなどスペースが限られている場合も多いので、設置するスペースを考慮しつつ適当なプランターを選びましょう。また、ゴーヤなどの野菜は深型タイプのものが適しています！

⑤ネット

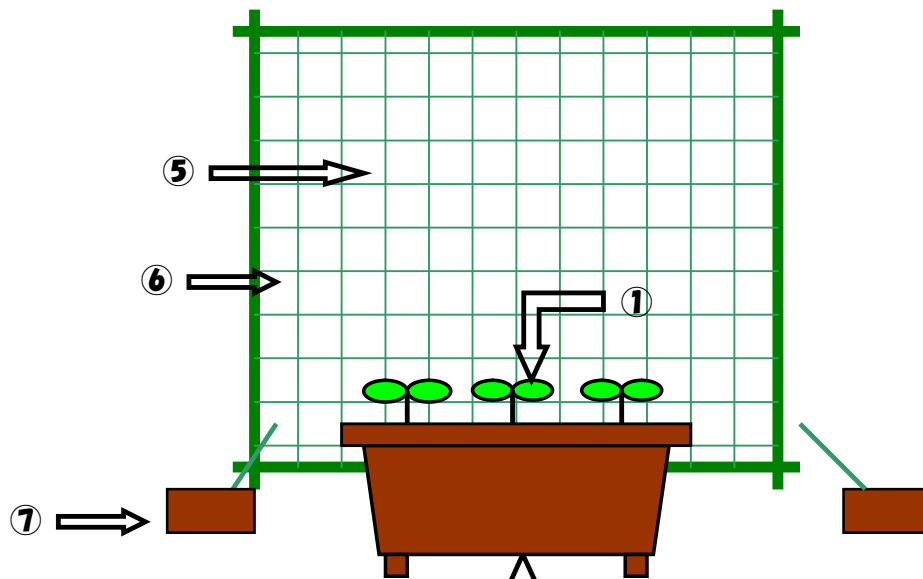
様々な規格・色の商品がありますが、網目が10cm程度のネットが使いやすいでしょう。1m単位での計り売りや既製品などがありますが、設置できる広さも様々なので、設置スペースにあった大きさのネットを選びましょう。

⑥支柱

園芸用の支柱(2m程のもの)が値段も安く適しています。

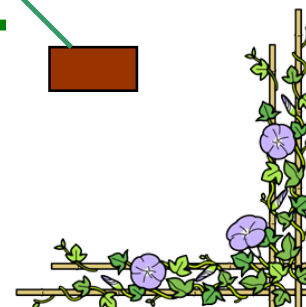
⑦重し

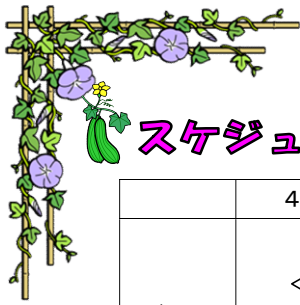
風の強いベランダなどはレンガやブロックなどの重しでネットが飛ばないようにしましょう！



緑のカーテン参考図

②・③・④





スケジュール

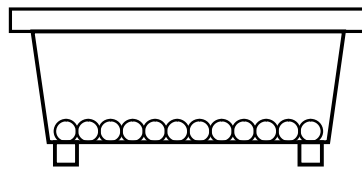
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ゴーヤ	種まき	植えつけ	ネット設置		収穫		ネット撤去
アサガオ	種まき	植えつけ	ネット設置	開花			ネット撤去

※スケジュールはあくまで目安ですので、「気温」や、「種まき・植えつけ時期」等により「開花時期」や「収穫時期」も前後します。



つくり方

- ①プランターのなかに鉢底石を薄く敷き均し、土をいれます。土はプランターの上端から2～3cm下がった位置まで入れましょう(水やりの際のウォータースペースをつくれます)。



←ここまで土を入れましょう♪

- ②種をまく場合は、前日から一晩水につけておきましょう! 発芽率がとても高くなります(一晩経過しても水に浮いている種は発芽しません)。また、発芽後の勢いも向上します。ゴーヤの種は、種の先端の尖った部分を爪切りなどでカットしてから、種一つ分ほどの土がかぶるようにしてまいてあげましょう(カットしなくても発芽します)。種まきから約2ヶ月～2ヶ月半ほどで、葉がカーテン状になります。

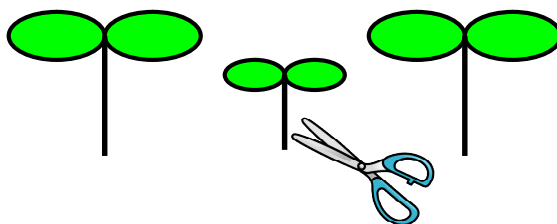
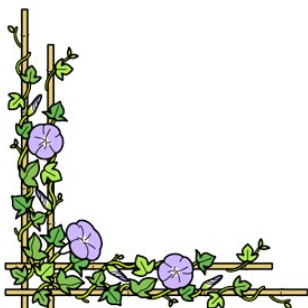
ゴーヤの種→



←カット



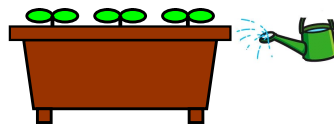
- ③一週間ほどで芽がでてきます。種をたくさんまいた場合は、芽も多く出てきますので、少し成長するのを待って「間引き」をしましょう。間引きとは、弱い芽を選んでつみ取ることで、間引きをしないと栄養分などが分散してしまい、大きく丈夫な苗に育ちません。





④苗を購入して植える場合は、健康的な苗を選びましょう。選び方のポイントとしては、葉がキレイな緑色をしていること(茶色や黄色の葉がない)、ポットの土が適度に湿っていること(水切れを起こしていないか)、根がよく伸びていることなどです。

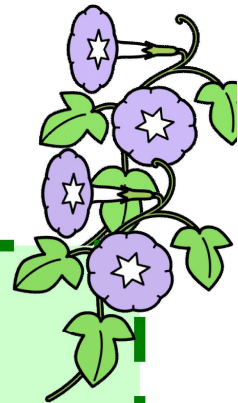
⑤表面の土が乾いてきたら、プランターの底から水がでるまで、たっぷり水をあげましょう。**水切れは絶対に禁物です!!**ゴーヤなどは水を好みますので、夏場は特に土の乾き具合をよく確認しましょう。



⑥植物がある程度大きくなってきたら、ネットの設置をするとともに、定期的(月1回程度)に追肥を行ってください。

⑦ネットを設置した後は、園芸用テープなどで止め、つるがネット全体に広がるように誘引してあげましょう(植物とネットを結束する際は、あまり強く止めないようにしましょう)。

⑧つるがネット全体に広がるころには、アサガオは花が、ゴーヤは実が楽しめます。ゴーヤの実をあまり大きくしようとすると、黄色くなってしまい観賞価値や栄養価が下がりますので、タイミングを見計らって収穫しましょう。



緑のカーテンを設置する際には、

1. 種は一晩水につけましょう!

2. 植物には水をたっぷりあげましょう!

3. 風でネットが飛ばされないように必ず固定しましょう!

4. ベランダなどでは、絶対に避難経路をふさがないようにしましょう!!

